

薬の伝言板 ~ヘルペス(単純疱疹と帯状疱疹)~



No. 283 2021年6月

丸子中央病院 薬局

ヘルペスは単純ヘルペスウイルス感染でおこる「**単純疱疹**」および、水痘・帯状疱疹ウイルスによる「**帯状疱疹**」をさしています。どちらも同じヘルペスウイルス科に分類される、親戚のようなウイルスですが、それぞれが原因になって起こす病気や症状は大きく違います。いずれも一度感染すると体内に潜んでしまい、抵抗力が低下した時に再発するという性格があります。今回はヘルペスウイルスについてお話しします。

○単純疱疹

単純疱疹は単純ヘルペスウイルスによって起こります。口、唇、眼、皮膚、陰部などに痛みのある小さな水疱ができ、最初の感染時には発熱と全身のだるさが生じ、繰り返し水疱や潰瘍を引き起こすことがあります。水疱の大きさが均一な傾向にあり、1年以内に再発することがあります。口に症状が出れば口唇ヘルペス、性器に出れば性器ヘルペスと言います。



○帯状疱疹

帯状疱疹は水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こります。はじめて水痘・帯状疱疹ウイルスに感染したときは、水ぼうそうとして発症します。水ぼうそうが治ったあともウイルスは体内の神経節に潜んでいて、加齢やストレス、過労などが引き金となって免疫力が低下すると、潜んでいたウイルスが再び活動を始め、神経を伝って皮膚に到達し、帯状疱疹として発症します。水ぼうそうにかかったことのある人なら、誰でも帯状疱疹になる可能性があります。



症状ははじめに皮膚に神経痛のような痛みが起こります。痛みは皮膚の違和感やかゆみとして感じる程度から、ピリピリ、ズキズキ、チクチク、針で刺されたような痛みまで様々です。その後、水疱を伴う赤い発疹が帯状に現れ、徐々に痛みが強くなり、眠れないほど痛むこともあります。水疱の大きさはまちまちで、強い痛みや皮膚の症状は、主に体の左右のどちらかにみられ、3~4週間ほど続きます。



○合併症・後遺症

帯状疱疹の皮膚症状が治った後も、痛みが何カ月ときには何年にもわたり残る**帯状疱疹後神経痛(PHN)**になる可能性があります。急性期の痛みは皮膚や神経の炎症によるものですが、PHNは神経に傷が残るために長期間に渡り痛みが起きると考えられています。頭部や顔面の帯状疱疹では、角膜炎などによる視力低下や失明、耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などが生ずることもあります。

○治療

治療薬としてウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス薬があります。带状疱疹の治療には、口唇ヘルペスや性器ヘルペスの治療に比べて数倍多い量の薬を使います。



以前に比べて带状疱疹の治療は容易になりましたが、それでも治療が長引いたり、治った後にも長期間、痛みが残ったりすることも少なくありません。带状疱疹が治った後に後遺症として痛みなどの症状が残ると、日常生活に支障をきたすことがあるため、できれば带状疱疹の発症を予防し、発症してしまった場合には早めに治療を開始することが重要です。痛みが強い場合は痛みを抑える鎮痛薬や抗うつ薬を同時に使うこともあります。

抗ウイルス薬	【内服薬】 アシクロビル バラシクロビル アメナメビル など 【注射薬】 アシクロビル点滴静注液 など	ウイルスの増殖を抑える薬 発疹が出てから3日以内に飲みはじめるとよい 症状が治っても処方された薬は最後まで飲む 基本的には内服薬で治療するが、場合によっては点滴薬が使われることもある
鎮痛薬	プレガバリン など	带状疱疹の痛みを抑える薬 痛みの種類と程度にあわせて、様々な薬が使われる 痛みが治まらない場合は、薬を増やしたり、変えたりする必要がある
ぬり薬 (外用薬)	ピダラビン軟膏 アシクロビル眼軟膏 など	皮膚の症状や痛みを改善する 水疱の中のウイルスが外に出て、他の人にうつらないよう、 皮膚を覆う効果もある

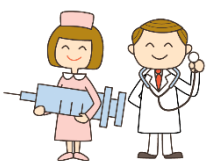


○予防

带状疱疹はワクチンで予防できます。水ぼうそうにかかったことがある人は、すでに水痘带状疱疹ウイルスに対する免疫を獲得していますが、年齢とともに弱まってしまうため、改めてワクチン接種を行い、免疫を強化することで带状疱疹を予防します。

なお、**带状疱疹ワクチン接種の対象は、50歳以上の方**です。

※予防接種は带状疱疹を完全に防ぐものではありません。



ヘルペスは免疫力の低下が原因で発症します。ヘルペスにかからないためには食事のバランスに気をつける、睡眠をきちんととるなど、日頃から体調管理を心がけることが大切です。